第 34 回可視化情報シンポジウムの開催にあたって

社団法人 可視化情報学会

会長 水野 明哲

Message to the 34th Symposium on Visualization

The Visualization Society of Japan

President Akisato Mizuno

第 34 回可視化情報シンポジウムの開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し述べます。

このところ、耐震強度擬装事件を見ても、技術者の倫理が問われるような問題が起きています。これからの技術の中では、単に結果がよければよい、とか金が儲かればよい、というような認識で仕事をしていては危険であるということを改めて認識させられました。技術者の高いモラルが要求されることになります。このような状況の中で学会が果たす役割は大きくなっていると考えても良いでしょう。

さて、第 34 回可視化情報シンポジウムは例年のように工学院大学で開催されます。1990 年代の初頭に国立教育会館から工学院大学に移って以来、私は毎年会場係としてお世話をしてまいりました。ここ数年は同じ研究室の飯田助教授がずいぶんお役に立っているものと思っています。今回は会長として皆様を工学院大学にお迎えするという特別な状況になったことを感慨深く思っています。

可視化情報学会が、もともとの柱としていた「流れの可視化」から「情報の可視化」へ大きな転換をしようとしていることは、これまでも紹介しているところです。今回のシンポジウムでは、「先進可視化システムとその活用」というパネルディスカッションを企画しています。ここでは大型計算と可視化に関する突っ込んだ討論が行われるものと思っております。まさに、当学会がこれから目指す方向のひとつを示唆してくれることと期待しているところです。

さらに、例年通りの特別講演も 3 件お願いしており、東大松本洋一郎教授の講演を始め、興味深い話題が提供されることでしょう。一般講演は 117 件で、これらが 12 のオーガナイズドセッションを中心として開催されます。「サイエンティフィックアート」のような OS を設けていることから、当学会がスコープを広げつつあることを象徴的にうかがえることでしょう。多数の来聴者を得て立派なシンポジウムが行われることを期待しています。

最後になりましたが、本シンポジウムの企画、準備、開催、運営にあたり多大なご尽力をいただきました石綿良三委員長、川口達也幹事をはじめとするシンポジウム実行委員会の委員各位のご努力に深い敬意を表するもので、関係者の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。

第 34 回可視化情報シンポジウム実行委員会：石綿良三（委員長；神奈川工科大学）、川口達也（幹事；東京工業大学）、飯田明由（工学院大学）、田村善昭（東洋大学）、三神史彦（千葉大学）、木村元昭（日本大学）、植村健（旭硝子（株））、岡本孝司（東京大学）、染矢聰（東京大学）、水野明哲（工学院大学）、木倉宏成（東京工業大学）、荒木幹也（群馬大学）、藤原暁子（東京大学）、加藤裕之（宇宙航空研究開発機構）、亀田正治（東京農工大学）